

長崎大学の感染症研究拠点の中核となるBSL-4施設の 基本構想(中間まとめ)の概要

平成29年5月19日

基本構想は、BSL-4施設整備について、これまでの検討の結果を取りまとめたもので、施設のあり方についての基本的な方針を示すもの。今後、詳細な設計、建設工事、マニュアル整備等を通して、更なる検討を行う。

○ 施設における使命

BSL-4施設の整備や運営に取り組むにあたって、本学は、厳格な管理の下で世界最高水準の安全性を確保しつつ、地域社会との共生を図りながら、研究や人材育成に関して世界を牽引する成果を創出することを使命とする。

○ 施設に求められる機能・性能

- ① 研究・人材育成を目的とする我が国唯一のBSL-4施設として、感染症の制圧に貢献する研究成果を創出するために不可欠な研究設備であること。
- ② 感染症法など国内法令等により求められる要件を満たすことはもとより、世界最高水準の安全性施設であること。

○ BSL-4施設の基本計画

- ① 実験者は陽圧防護服を着用し、各実験室は高度な気密性能を持たせるほか、万が一の場合の病原体の外部への漏洩を防ぐために、実験室では内向きの気流をつくるなど、幾重もの封じ込めを行う。
- ② 大規模な自然災害、火災、停電などのあらゆるリスクを想定し、その対策を講じておくことで封じ込めの維持を確実なものとする。
- ③ 利用者に対するエリアごとのアクセス権限、生体認証等の対応策を設定し、特定の人間以外がBSL-4実験室エリアには近づけない設備と運用ルールを整備する。

○ BSL-4施設の管理運営体制

本学に、「長崎大学感染症共同研究拠点」を置き、

- ① 国、地方公共団体、国内外研究機関及び地域との緊密な連携を通して、
- ② 世界最高水準の安全性が確保されたBSL-4施設を整備するとともに、
- ③ 施設を用いた感染症研究による成果を創出し、地域社会をはじめ広く世界に還元する。

○ 地域との共生

BSL-4施設の設置・運営にあたっては、地域社会との共生が図られるよう、十分な透明性の確保と、説明責任を果たすとともに、積極的な広報に努める。

今後、①情報の開示・提供、②施設における緊急時対策、③医療面での貢献について、地域連絡協議会や、説明会等を通じて、双方向のコミュニケーションを図りつつ、地域の皆様の声を反映していく。

